イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　168号

からし種一粒程の信仰

ルカ福音書17章1～10節

伊藤　節

皆さん！ 湖にボートAが浮かんでいます。その隣の浅瀬には朽ちて沈んだボートBが見えます。皆さんはA、Bどちらの姿がボートとしての当たり前の姿でしょうか（浮かぶ⇒生きる、沈む⇒死ぬ）。答え1、機能からして“浮かんでいる”のが当たりまえである。但し普段から“沈まない”ように手を加える必要がある。答え2、やがて朽ちて“沈む”から“沈んでいる”のが当たり前である。“浮かんでいる”のは一時の事で当たり前ではない。ボートの姿は人生に譬える事ができる。聖書は説ている「アダムの末裔の人間は罪人である故に死ぬ（ロマ6：23）と。正解は答え2である。しかしこの事実に生きると諦めの人生となる。答え1で生きようとすると事実は答え2であるから常に、死の恐怖に襲われる。虚像を実像とする間違いからくる不安である。

この課題を克服するには主イエスを信じて永遠の命を持つ神の子へと生まれ変わる以外に術はない（ヨハネ1：12、13）。神の子へ生まれ変わると生きる事は当たり前と変わる。ところで災いにおいてはどうだろうか。世の人々は災いによって死に至るのでは・・・と不安に怯える。しかし神の子にとっては永遠の生命の上に降り懸かる災いであるから、如何なる災いに遭遇しようとも神の子が敗北することは有り得ない（ロマ8：31～39）。それは神の子が永遠の命を生きる大きな力を得ているからである。他者の眼差しや陰口、巷の噂などを恐れなくなる。更に真の平成、癒しを経験する。災のなかにあっても決してへこたれない。心の貧しさを知って全ては恵みの中にあると気付く（マタイ5：3）主は総てを統べ治めるお方である。あらゆるものを造り変えて行く。神の子は「からし種一粒程の信仰」を戴いて主に自分の全てを明け渡し、一途に永遠の生命を生きれば良い。永遠の生命を生きること自体が主の恵みの中、主の護りの中、主の支配の内を生き歩んでいることだからである。又そこからもし道を外すなら悔い改めと信仰を通し主の十字架が贖い戻してくださる。だから永遠の生命を生きる事、それは我々が主の御意を生きる事であって自分の思いを生きることではない。それゆえ神の子は主の前に立てば「ふつつかな僕です。すべきことをしたに過ぎません」と申しあげること以外の言葉は湧きあがらないのです（ルカ17：1～10）。主に栄光が帰せられますように。ハレルヤ。

（日本ホーリネス教団牧師）

霊想

「生ける水の川が流れでる」

使徒言行録　1章8節

天門教会　牧師・貴村　かたる

神は善であられます。神がイエスを世に遣わされ、まずは彼に聖霊をそそがれ公生涯に導かれたように（使徒10：38）、神の聖徒たちにも聖霊を注いでくださり、聖徒の公生涯を持たせられました。

1. イエスの公生涯

イエス・キリストが30年間この地で、アブラハムの子孫ダビデの子孫、ナザレの人としておられましたが、ヨルダン川へ行かれバプテスマを受けられて、水から上がられた時に神が言われました。「これは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者」他の訳では、「わたしの喜ぶ者」となっています。それまでの30年間ナザレの人として誰も彼から神性は現れなかったので神の御子だと誰も分かりませんでした。30年間は自分のこともして、また友達と遊んだりもしたでしょう。しかしヨルダン川でバプテスマを受けられ「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である！」と、神が宣言されたその時間から御自分の思いのままに生きられない公生涯を持つようになったのです。その時間からイエスが十字架で死んで、昇天されるその時間までを公生涯と言います。

2. 聖徒の公生涯

第1コリント1章1節から3節を見ると、使徒と選ばれた者と、聖徒と呼ばれた者と、主の御名を呼ぶ者、即ちイエスが来なさい！と呼ばれた12弟子、そして聖徒として選ばれた者と、主の御名を呼ぶ者とに区分しています。しかし、聖書通りに言うならば、神の聖徒と、まだ聖霊に導かれて生きていない、主の御名をただ呼ぶ信者を区別しています。主の再臨の時の第1の復活は聖徒に約束されています（黙20：5）。いわゆる主の御名の為に首を切られた者、即ちバプテスマを受けた時から公生涯を持った者達が第1の復活に与ることであって、イエスの死が公的な死であるように私たち聖徒の死も、公的な死となる時にその人を聖徒だと、第1の復活に与る者、そのように聖書はハッキリと言っています。教会に来れば第1の復活に与るのではありません。復活を象徴的に考えてはいけません。私たちはここでハッキリと知るべき事は、第1の復活（再臨）に与ることができる者、それは聖霊充満になって聖霊によって公生涯を持つ者、聖徒と言うのは信者の公生涯を聖徒と言うのです。弟子と言うのは、聖なる弟子と言うのですが、呼んだ！そして教えて遣わした！こういう意味です。ですから私が主の前に足を踏み出した後からは、私が行動することは死ぬまで、自分の思いのままに出来ないこと、それが聖徒です。皆さん本当に、自分が聖徒だと言えますか？聖徒だと言う者だけが、再臨信仰の第1の復活の保証があります。その後の艱難も克服でき、その後の審判も受けません。しかし、その他の者は次の審判を受けなければいけません。ですから私たちがここで悔い改めて聖霊充満になり聖霊に導かれて生きなさい！と、言うことです。バプテスマを受けて聖霊が臨むならばその時間から私たちの生涯は、公生涯になります。そして力が臨みます。力の支援、助けを受けて、力を従えて、働くのです。このように聖霊が臨みます。

3. 聖徒の生活をしよう！

イエスが神の御子でなければ私たちに聖霊は臨みません。天地万物を造られた神の御子！が、肉体を持ってこの地に来てなされたその証、イエスが来られて、天に行かれる時に、「私が去って行けば聖霊を遣わす、私が来て行ったということを信じるあなた方に聖霊を遣わす」と言っています。イエスが来て、十字架で死んで、復活して行かれたと言うそれを信じる者に聖霊が臨んだのです。皆さん私たちが聖霊を受けたのは偶然ではありません。私たちが信じる信仰はこの世で宗教を信じる人達とは同じではありません。確実な証を受けて、証を持って信じているのです。ですから聖書には、「証を持っている者には命があり、証を持っていない者には命がない！」とこのように第一ヨハネ5章11節12節で言っています。証があるのか？ないのか？これが非常に重要です。本当に皆さん公生涯を持つべきです。霊的な人です。ですから「聖徒の生活をしよう！」従って聖霊充満になって、力が充満になるように共に与えられた信仰生涯を公生涯で歩みましょう。アーメン

立証

主よほめたたえよ

新宿西教会信徒
川名　恵三

「主よほめたたえよ、主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」
（詩篇一〇六・一）

「主は今も生きておられる」

私は一九四七年から日本基督教団の事務局、出版局、年金局の各部署を経て一九九七年二月まで五〇年働かせて頂き、無事退職いたしました。

振り返りますと、戦争のため、松本に疎開、同地の中学校を卒業、大学進学を望みましたが叶わず、父の商売を手伝っていましたが、まもなく倒産、失望のどん底にあった時、ある方の紹介で、東京にある日本基督教団事務所で働くよう導かれました。

事務所では出版局、事務局、年金局の各局の職員として、悔いのない毎日と感謝の日々でありました。

とはいっても楽しいことばかりではなく、当然辛かったこと、悲しかったこと等も多々ありました。でも主がいつも共にいらして、慰さめ、励まされ、支えられ、守られました。

ところが退職してから一週間後、健康保険の変更手続きのため御茶の水の事務所に行った帰り道、大久保のバス停で降りて、家に向かって歩いている中、急に胸が締めつけられるような痛さと苦しさに思わず祈りながら家につくなり、横になりましたが、痛みは夜になると激しくなり、救急車で病院に入院しました。検査の結果、心筋梗塞と診断され、心臓をとりまく三本のバイパス手術を受けました。お陰様で一四年後の今日まで再発することなく、毎月一回診察を受けております。

ところが五月一九日のこと、いつものように散歩に出かけましたところ、急にお腹が痛くなり道でかがみ、祈っていました。

急に右腕に一瞬チクと痛みを感じ、目をあけると白衣の女性が私の前にいて注射を打っているのが目に入り、ここは診察室だなと直感しました。看護師さんは、「あなたがこの診察所の前でかがんでいるのを通行人が見て知らせてくれたので、応急手当をしているところです」を教えて下さいました。

その後医師による診察を受けていると、妻と息子が診察所からの連絡を受けて駆けつけてくれました。医師は「この診察所の前で意識を失ったのは不幸中の幸いだった、しかし持病をもっているのでこの後病院に行くように」と言われ、幸い普段通院している病院が直ぐ近くであり、帰りにそのまま入院することが出来ました。病院では通常のカルテもあり、適切な治療がされ、一週間後退院して現在家で安静にしております。

普段家では毎朝妻と二人で日課による「み言葉と奨め」の書籍によって祈る「恵み」の時をもっています。突然予期しない出来事と遭遇しても、主がいつも共にいらして、最も良い道を備えて下さることを日々覚え、「聖名を崇め感謝」しています。

「私の教えを忘れず、わたしの戒めをこころにとめよ、そうすればあなたの日を長くし、命の年を延べ、あなたに平安を増し加える」。（箴言三・一）

第43回城北アシュラム報告

川村　秀夫

二〇一二年二月十一日（土）に恒例の城北アシュラムが新宿西教会を会場として開催され、七教会五十八名の参加が与えられました。前回から子どもを持った家族も安心して参加できますようにとベビーシッターを設け、子ども達にも福音を伝えました。

開心の時は池の上キリスト教会の飯島延浩さんに担当して頂き、スタンレー・ジョンズのテキストを用いて、開心の時の持ち方を学びました。「ニードが深いほど愛のいやしが与えられる」この与えられた意味を噛みしめながら、皆さんのニードをお聴きしました。

祈りの細胞は八分団に分かれ、ご自分のニードを深く掘り下げる時が与えられましたことを感謝いたします。

静聴の時は池の上キリスト教会牧師の千代崎備道さんが担当なされました。「マルコによる福音書五章」を静聴し、神様が私に語って下さる御言葉を掴み、私に何を語ろうとしているのか、神さまから示され、与えられた箇所を発表し恵みを分かち合いました。

福音の時は天門教会牧師の貴村かたるさんが担当なされました。イエス様の十字架上の出来事は公的の

人間として振る舞われました。父の命令を受けて天の栄光のために死ぬ、公人としての死でありました。ですから復活して天に上りました。「本当のことを言う。私が去っていくことはあなたがたにとって益となる」「わたしが去ってゆかなければ、あなた方の内に聖霊が下ってこない」「父にお願いしてあなた方に聖霊を下させよう・・・」聖霊がわたしたちに証として臨んでくださるのです。悔い改めたものたちに現れるのです。清くなった者の上に現れるのです。その人は力を受ける権利を有するのです。聖霊を受け聖徒として公生涯を歩みましょう。と力強く情熱的に語って下さいました。

充満の時は東京新生教会牧師横山義孝さんが担当されました。聖霊の生ける川に浴し聖霊に充満される体験をしましょう。スタンレー・ジョンズが伝道に行き詰まった時、祈りの中で、全てを主に明け渡すように促され、すべてを主に明け渡しました。そのとき彼は聖霊によって満たされた体験を持ったのです。それから全力で伝道活動を続けましたが疲れがなかったと言います。私たちも主に全てをお委ねし、聖霊に満たされる経験を体験しようではありませんか、と語られました。そして今日受けた豊かな恵みを皆で分かち合いました。感謝。

第19回東京新生教会アシュラム報告

横山　基生

今回で第19回となるのでほとんどの教会員にとって、「アシュラムとは何か」ということが浸透しています。土曜日の夜7時から日曜日の午後3時までという短いアシュラムですが、互いに心を開き集中して主のみ言葉に聞き、恵みを受けることが出来ていると言えます。アシュラム運動に長く関わって来た横山義孝師にアシュラムの指導をすべてお願いしてきましたが、今回は主任牧師の私が開心の時と聖日の礼拝説教を担当しました。

今年のゲストは、日本基督教団横浜岡村教会員の藤山クニエ姉です。実生活からの生き生きとした証しはとても説得力があり、聴く一人一人に励ましと恵みを与えて下さいました。教会外から過去19回立証者が与えられてきました。これも素晴らしいことです。牧師として苦労するところは、分ち合いのグループをどのように分けるかということです。同じ教会員同士と言えども相性があります。東京新生教会に来はじめてまだ日の浅い姉妹から、「東京新生教会の皆さんは、一人一人真剣に主に向き合って信仰生活を歩んでいますね」という感想を聞きました。自分の霊的な課題を正直に皆の前で語るということが、同じ教会員同士であるので出しにくいということがありますが、主の恵みの導きの中で、それを乗り越えて分ち合うことが出来たことは、本当に感謝でした。

アシュラムの盛り上がりは、最後の充満の時にあります。誰から話し出すか一瞬緊張が走ります。ここをリードしてくださった横山義孝師が上手に指名して、あとは順番で語り始めました。その中で、興味深かったのは、一人の兄弟が、充満のときに義孝師が語った分ち合いの言葉から教えられ、目が開かれたと語ったことでした。「イエスは主である。イエスは実によみがえられた。」を唱和して、今回のアシュラムも豊かに恵まれ閉じることができました。

地区アシュラム予告

●第50回関東アシュラム
とき　12年9月17(月)～19(水)
ところ　山崎製パン箱根山荘
助言者　横山義孝師（東京新生教会協力牧師）

●第46回九州アシュラム
とき　12年9月16(日)～17（月・休）
ところ　「福岡黙想の家」
助言者　岡山敦彦師（大分恵み教会牧師）

●第46回関西アシュラム
とき　12年10月7(日)～8(月)
ところ　母の家ベテル（灘区御影町3の27）
助言者　横山義孝師（東京新生教会協力牧師）

●第3回仙台アシュラム
とき　12年9月29(土)～30(日)
ところ　日本キリスト教団仙台青葉荘教会
助言者　村瀬俊夫師（日本長老教会牧師）

〒一八一－〇〇一一　三鷹市井口3－15－6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座　東京〇一〇〇－一－四五五八